

【新病院はどこにできるの？】

■川崎幸病院とは

川崎幸病院(社会医療法人財団石心会)は、川崎市幸区都町に1973年(昭和48年)に開院して以来、長年にわたり地域医療に尽力してまいりました。この四十年近い間に、健診等幾つかの部門を別事業所として独立、1998年(平成10年)には一般外来を「川崎幸クリニック」として分離し、それぞれの医療/福祉事業に特化してきました。これにより現在の川崎幸病院の機能は、地域医療の要である救急医療とそれを支える高度医療に特化した急性期病院です。また、これを実践する為に石心会グループのみならず、開放型病院として地域開業医の先生がた等と密に連携をとり、地域完結型の医療を推進しています。

■移転新築の経緯

この度、現病院の老朽化に伴い、また種々の最新医療機器の導入等による狭隘化から、同じ幸区内で、より広い延べ床面積を確保できる場所への移転新築を模索しておりましたが、川崎市が進める「川崎駅西口大宮町地区開発計画」において(通称)F街区の土地所有者である川崎市住宅供給公社様より共同事業者に選定されました。数年にわたり、検討を重ねて参りましたが、計画全容の目処が立ちましたので、この度F街区の一部を購入、着工となりました。

※川崎市ホームページ〈川崎駅西口地区住宅市街地総合整備事業〉

http://www.city.kawasaki.jp/50/50sigai/home/kawasaki_nishi/jusiso/jusiso.htm



〈川崎駅西口周辺と新旧川崎幸病院の位置関係〉

■移転規模

計画地である大宮町は川崎駅からも近く、なおかつ、現病院のある都町からも近いことから、患者さんにとっても便利な場所です。新病院は24時間態勢での救急医療を入りに、各専門センター等にて地域で一番の高度医療を提供する事を目指します。新病院は、より効率的な医療を提供する視点から、川崎幸病院(203床)と川崎幸病院中原分院(62床)の医療機能を集約し許可病床合計265床にて運用を開始します。なお、一般外来である川崎幸クリニックは今後も現在の場所(南幸町)での医療業務を継続します。

新病院の開院は平成24年春を予定しております。

■周辺環境

川崎市全体の玄関口となっているJR川崎駅。その西口は近年再開発が行われており、「音楽の街・川崎」をテーマにシンフォニーホール「ミュージア川崎」が、また西口から多摩川に向かう沿道には桜並木が続きTVロケ等でもよく使われる「ソリッドスクエア」がランドマークとなります。更に平成18年秋には約11万㎡の商業/住宅ゾーンを持つ新しい街「ラゾーナ川崎」がオープンしました。

JR川崎駅より新幹線ターミナル駅の品川駅まで約10分、京急川崎駅より羽田空港まで約20分と利便性が良く、東京と横浜の中間ということもあり、近年ベッドタウンとしての再開発も顕著で、ニューファミリー世代の増加が特筆されます。



〈ミュージア川崎シンフォニーホール〉



〈大型商業施設：ラゾーナ川崎〉



〈JR川崎駅ビル：Kawasaki Be〉

ここ10年、そしてこれからの10年、川崎駅西口側である幸区は大きく様変わりしていきます。そして川崎幸病院も、その再開発地区（新病院はJR川崎駅より徒歩8分）に次世代の医療機能を構築すべく、急ピッチで新築工事中です。



〈新・川崎幸病院 イメージ図〉

